

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873400208
法人名	有限会社 介護支援サービス しるもと
事業所名	グループホーム・サマリヤの家
所在地	上浮け穴郡久万高原町上野尻甲 6 2 3 - 2
自己評価作成日	平成22年5月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年7月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは四季折々の自然豊かな山々に囲まれた久万高原町の人情豊かな下町にあり、1階がデイサービス、2階がグループホームとなっています。「自由権の尊重」を基本理念に置き、入居者の意志、行動に対して危険性がない限り干渉せず、自立と本人の望む生活を支援することに力を入れて取り組んでいます。開設当初より地域住民との交流が活発に行われていましたが、デイサービスが出来た事によって、より一層交流が深まっている。認知症になっても住み慣れた地域の中で、支え合う職員と共に楽しく自分らしく暮らしています。

事業所は、町の認知症の理解を高められるような取り組みに力を入れておられ、今年度は、県の在宅介護支援センターの「出前講座」を依頼されている。その際には、地域の方やご家族にも参加していただきたいと考えておられた。

職員とともに事業所周辺を散歩されたり、近くのスーパーへ食材の買出しに出かけられたり、車椅子の方も日常的に外出をされている。町の産業文化会館で行われる文化祭や演劇等に出かけたり、演歌歌手のコンサートを楽しみに松山まで職員と出かけられた方もある。先日は、5人の利用者で職員と、お弁当を持って動物園に出かけられた。

職員が「一日利用者さんになってみる」体験をされ、車椅子での生活やオムツの着用、全介助での移動・移乗等、一日を通して利用者体験をし、体感したことは、ケアの工夫等につながっている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 当ホームは開設当初より、住み慣れた地域での安心した生活と本人の望む自由な暮らしを支えるために、代表者と管理者が、様々な場面で理念の大切さと実践に向けた取り組みについて話し、ホームの理念を職員全員で作り上げ、共有し、迷った時は理念に戻り、実践に向け努力している。	
			(外部評価) 事業所は「やさしい笑顔 よりそう心 主役はお年寄り」という理念のもと、利用者が主役のケアの実践に日々取り組んでおられる。自己評価に取り組む際、理念を見直すことについて、職員全員で話し合われたが「現在の理念を大切に共有していくこと」でまとまったようである。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会にも加入しており、公民館の行事、婦人会、高校の文化祭のバザーや近所の幼稚園、保育所の行事にも声をかけてもらい、出来るだけ参加し地元の方々の交流に努めている。5月より高校生（VYS）がお話ボランティアに月2回来てくれている。	
			(外部評価) 近所のお宅の畑等で採れた野菜やお花をいただいたり、事業所の庭で「焼肉大会」をされた際には、近所の方も招き、利用者とともに楽しまれた。事業所は、町の認知症の理解を拡げられるような取り組みに力を入れておられ、今年度は、県の在宅介護支援センターの「出前講座」を依頼されている。その際には、地域の方やご家族にも参加していただきたいと考えておられた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 現在まで職場体験実習生の受入や認知症サポーター講座の開催、「久万踊り」の参加、地域バザールの出店等地域の方々に向けアピールを行ってきたが、今年度は認知症についての出前講座を計画している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者の日ごろの様子やホームの取組みなどの報告 を行ったり又、運営推進会議委員にも敬老会や救命講 習へ参加していただいている。会議で出た情報や意見 については全職員に周知しサビ ス向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 会議は、法人の系列グループホームと合同で行われて いる。会議では、外部評価の報告をされたり、火災の 事例をもとにして事業所の防火安全対策について報告 し、意見交換をされた。利用者と一緒に昼食を食べて いただいた時には「家庭的な雰囲気、あたたかい支 援をされていますね。」との感想をいただいた。</p>	<p>今後、会議にご家族やご近所、地域のいろいろな立場 の方に参加いただき、認知症のことや事業所の取組み をさらに知っていただければどうだろうか。参加者 にご意見をうかがいながら、事業所のケアサービスの 質向上につなげていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 町が月1回行っている地域ケア会議に参加するよう にし、情報の共有を図っている。町の担当とは協力関係 にあり、いつでも相談、助言が受けられる関係が構築 されている。運営推進会議には必ず出席していただ けている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、町の担当者から、町独自で取り組 んでいること等を紹介してもらったり、昼食会の際に は、利用者とともに食事をされた。町からの依頼もあ り、事業所では、精神障害者の方の就労支援を行われ ている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束は人権侵害に当たることを全職員が認識して いる。日々の業務チェック、見守り、巡回及び職員へ の継続的な意識付け(身体だけでなく言葉かけも)を 行い、身体拘束0の方針で職員全員で取り組んでい る。</p> <p>(外部評価) 代表者は「スピーチロック」も拘束であることを日々 職員に話されている。事業所は、2階に位置してい ることもあり、踊り場にセンサーを設置してチャイムが 鳴るようにされている。外に出たい方は、動きを止め ることなく、ご本人が納得されるまで職員が付き添 っておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 代表や管理者が虐待防止に関してははっきりとした考え方や、方針を持っており、常にカンファレンス等でも話し合っている。身体的、精神的全ての虐待を生じさせないように、職員のストレス解消を含め、継続的に取り組んでいる。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在当ホームに対象者が1名いる。権利擁護の研修など職員と共に学び、研修出席者が学んだことは全職員に周知している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時には、当ホームのケアに関する考え方や取り組みなどをはじめ、グループホーム協会から出ている権利、倫理綱領等を契約書と一緒にお渡しして不安のないよう十分に説明し、理解、納得をして頂いている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談員が月に2回来訪しており、利用者が外部の人に思いを話せる機会となっている。また、管理者、職員にも話すことが出来るよう、個々の部屋での会話を持つようにしている。出された希望や、要望は運営や日々のケア活かしている。 (外部評価) 「サマリヤだより」を季節ごとに発行され、おやつ作りの様子等、写真を載せて利用者の表情等も伝えておられる。遠方のご家族へは、毎月利用者の近況を手紙で報告されている。多くの家族の意見を知っていただき、ご家族が安心して意見や要望を出せるよう、評価機関が送付する家族アンケート集計表をご家族に配っておられる。	事業所からご家族に遠慮なく意見を出していただけるよう働きかけておられるが、現在、ご意見をいただくことは少ないようである。家族会の際に、ご家族だけで話すような時間を設ける等、工夫されてみてはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者・管理者は常に職員の要望や意見を聞くように心がけている。職員の雇用や運営の方針なども相談しながら職員の意見・要望・提案がホームの運営に反映されるよう取り組んでいる。在職率も高い。	
			(外部評価) 代表者や管理者は、日々職員の声に耳を傾けておられる。職員が「一日利用者さんになってみる」体験をされ、車椅子での生活やオムツの着用、全介助での移動・移乗等、一日を通して利用者体験をし、体感したことは、ケアの工夫等につながっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 運営者がいつも現場の状況を把握している。資格修得を奨励し、修得後は資格手当を含め、向上心を持って働けるよう労働環境作りを努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新人研修をはじめ全ての職員が、段階に応じた研修（GH連絡協議会の研修）をしてもらっている。受講後は報告書を提出してもらい回覧したり、カンファレンスで発表してもらい全職員が共有している。職員が一日利用者さんを体験することで、利用者さんの気持ちをわかったり、気付きなど発表する場を設けケアに生かしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県GH連絡協議会に加入しており、毎年1回行われている相互訪問研修に参加している。また、毎月行われている協議会主催の研修会に1名づつ出席している。ネットワーク作りや質の向上に向け取り組んでいる。町内の他のホームとの交流は、声かけしているが実現には至っていない。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 出来るだけ生活状況の把握に努め、利用者によって訪問、入居の段階を踏み、信頼関係を作ることにより本人、家族が安心できるよう努力している。また、しばらく慣れるまでは代表が泊ったり、家族にも泊ってもらうなど信頼の構築に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族関係や本人の状況など、じっくり話を聞き、当ホームではどんな対応ができるのか双方の理解と待ってくが得られるまで家族の心情を理解しつつ話し合いをするように努めている。出来る限り柔軟な対応をさせていただいている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 基本的に申し込み順に入居してもらっており、共同生活が著しく困難等、特別のことがない限り柔軟な対応を取らせてもらっているが、状況によってはケアマネージャー等と連携の上、他のサービスにつなげることもある。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に時を過ごす家族のような関係作りに努めている。毎日と一緒に過ごすことで共に喜び、共に哀しみ、支え合って、生活を作り上げていく努力をしている。利用者さんの土地を貸してもらい野菜を植えたり、家を開放してもらうことで本人と一緒に過ごす時間をもっている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 様々な家族の在り方があるが、それぞれに置かれた家族の思いに寄り添いながら喜怒哀楽を共にして、本人を支える関係を築くよう努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) グループホームの近くに自宅があるため、行きたいときいつでも行っている。車椅子で行くことが多いため道中、友達や近所の方が話しかけてきたり、馴染みの理髪店に行くことで関係が途切れないよう支援に努めている。 (外部評価) 入居以前からの行きつけの美容室を利用されている方や、友人と文通をされている方もある。利用者の「ふるさと訪問」を支援されており、調査訪問前日に、山間部のご自宅を職員とともに訪ねた利用者もあり「背中におぶって行ってくれた。背中が大きくて少し恐かったけど、帰れてよかった。」と話してくださった。利用者の平均年齢が90歳を越えており、利用者の友人や知人も少なくなってきたようである。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い利用者さん同士で座ってもらったり、孤立しがちな方は、職員が上手く関わられる場面を設定したりしながら利用者同士の関係の支援をしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ホームでの対応が困難になり、長期に入院となっている利用者、家族との関係を断ち切らないようお見舞いに行ったり、相談を受けたりしている。また、亡くなった利用者さんの家族さんと年賀状のやり取りや、息子さんが来訪してくれている。	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で職員が本人、一人一人の把握に努めている。可能な限り本人の意向を第一にしているが、意志疎通の困難な方の場合は、本人の表情、仕草から汲み取ったり、家族の希望を聴くようにすることで、本人の思いが叶うよう努力している。	
			(外部評価) センター方式を利用し、利用者ひとりひとりの思いや意向の把握に努められる。全職員が利用者とな日々かかわる中で得た、それぞれの情報を似顔絵入りアセスメント表に記して、全体でまとめておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 普段の関わりの中から、本人自身への聞き取りや、家族・友人が来訪時に職員が把握に努めるようにして、センター方式に活用している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の出来ること（排泄、睡眠、生活習慣等）を日々の関わりの中で職員全員に周知し把握するよう努めている。特に排泄、睡眠に関してはチェック表で確認しケアにつなげている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>本人希望を第1とし、家族の希望や思いを、普段の生活の中から汲み取り、センター方式の様式を取り入れたことで、プランに生かせるよう努力している。また、毎月のモニタリングにより一人ひとりを把握し見直しを行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者それぞれの困っている事や希望、楽しみ事等を、全職員が個別に書き出し、支援方法についても職員個々に考え、それらを持ち寄り話し合われて、介護計画を作成されている。計画は基本的に6ヶ月で見直しをされているが、月1回モニタリングを行い、必要に応じて随時見直しをされている。</p>	代表者は、より良い介護計画の作成のため「ご家族にもモニタリングに参加していただきたい」と考えておられる。ご家族とともに「ご本人が主役の暮らし」を支えていかれてほしい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>ケース記録にプランに反映しているときは「p」、利用者さんがいった言葉、気持ちなどに関しては「#」、体調の変化や気づきに関しては「*」、家族などの訪問時はボールペンの色を変えて記入するなど職員などで情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>併設のデイサービスのイベントへの参加や、同事業所内でのイベントの参加などの交流を行っている。本年2月より、GH共用型のデイサービスを開設し必要に応じ本人、家族の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。</p>	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>地域ケア会議、運営推進会議などで協力をお願いし、普段から連携をとっている。また、保育園、幼稚園、学校等の行事等の参加や職場体験の受入など行い、地域で安心して暮らしていけるよう支援している。社協のボランティア制度も利用している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人、家族の希望するかかりつけ医に月1回往診してもらっている。体調不良時は随時往診してもらったり、職員が同行し、受診をしている。病状を把握、家族と共有し適切な医療が受けられるよう支援している。町外の医療機関への受診も基本的には職員が同行するが、状況によってはご家族の同行をお願いしている。</p> <p>(外部評価) 協力医は、緊急時等、24時間体制で連絡が取れるようになっている。歯科については、義歯の調整程度であれば訪問歯科を利用できるが、治療が必要な場合は町内の歯科医院を受診されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 普段は介護職員で一人一人の体調管理や病状把握に努めており、急変時は24時間体制でのかかりつけ医や、法人内の看護職員に来てもらったり、医療が必要な場合は訪問看護を利用している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時には出来るだけ短期間で退院出来るよう主治医と話をする機会を多く持ち、家族とも情報交換しながら、早期退院に向けて、職員が頻繁に見舞うようにしている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居後早期の段階で重度化に対するホームの考え方、対応方針、医療との連携など十分に説明し意思の確認を行っている。また、状況の変化に応じて話し合いを繰り返し重度化や終末期に向けた支援を行っている。当ホームでは、看取りに関してはご家族や職員、医師と話し合いを重ね意識統一して支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所は、開設当初から終末期の支援が行われている。入居時に事業所としての「重度化対応・終末期ケア対応指針」について説明され、利用者のご家族の意向を聞いておられる。その後は、状態が変わるたびに意思の確認をされている。昨年は、主治医、訪問看護、併設のデイサービスの看護師や言語聴覚士と協力し、出来る限り口から食べることができるよう支援しながら看取りをされた事例がある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、カンファレンス等で周知徹底を図っている。消防署の協力を得て、毎年1回法人全体で救命救急法の勉強会を実施している。実際の場面で生かせるよう取り組んでいるが、いざとなると慌ててしまう不安もあるので繰り返し練習するよう努めている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、避難訓練、消火訓練を年1行っている自治会にはホームの見取り図と利用者の身体状況(寝たつきり等)を情報提供し、いざというとき1番に駆けつけてもらえるようお願いしている。また、代表、職員が近所に住んでおり、すぐ駆けつけられる状況にある。今年、自動火災通報装置・スプリンクラーを設置した。 (外部評価) 3月に起きた北海道のグループホームでの火災を受け、事業所における災害対策の実施状況等について点検、再確認の上、職員で話し合われた。ご家族の了解を得て、事業所内の見取り図に各居室ごとに氏名、性別、年齢、歩行状態等を記入して、消防署や協力いただける地域の方に渡しておられる。又、これまでは年2回行っておられた避難訓練を年3回実施するよう計画されていた。	事業所では、運営推進会議時に、度々災害対策についての議題を出され、参加者と協議されている。事業所が2階に位置するということもあり、今後は、協力者にも避難訓練に参加していただく等、さらに地域との協力体制を築いていかれてほしい。利用者・職員の安心安全に向けての取り組みを重ねていかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) カンファレンス時等折々に職員の向上を図ると共に、その時々に関わり方を代表者や管理者が利用者の誇りや、プライバシーを損ねない対応の(特に人前でのトイレ誘導の声かけ入浴時の羞恥心に対する配慮等)や自己決定の出来る言葉かけの指導等を折々に行っている。踊り場を一人になりたいとき過ごせるような空間にしており、自由に過ごされている。 (外部評価) 職員は、常に「利用者の目線で動く」ことに心がけておられる。又、利用者の話をお聞きする時は「やさしい笑顔」「よりそう心」を大切に「傾聴」するよう心がけておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人一人の持てる力に合わせて、入浴時、衣類の選択をしてもらったり、買い物時の選択、おやつ飲み物の選択等、出来る限り自己決定してもらうよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な1日の流れはあるが、起床や就寝は一人一人のペースを尊重し食事もそれに合わせて出している。また、「早く」「待って」と言う言葉を出るだけ使わないよう心がけて、利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるよう努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替えなど本人の意志で決めてもらっているが、自己決定がしにくい支援の必要な利用者さんは職員が手伝ったり、見守りを行っている。美容院は本人が行きたいとき、行きつけの店に行けるよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 家庭菜園で採れた野菜の下ごしらえや、調理の下準備、片付けなど一緒に行っている。仕方を忘れていた利用者さんにはできるだけ一緒に行くようにすることで、生活を思い出させるよう配慮している。昼食時は利用者さんと一緒に同じテーブルに着き、同じものを食べ楽しい雰囲気の中で食事が出来ている。	
			(外部評価) 事業所では、ご近所の方にいただいた野菜やご家族が提供してくださっている畑で採れた野菜等、旬の食材を使用し、少しずついろいろな味を楽しむことができるように工夫されている。米飯よりパンを好まれる方にはご希望をお聞きし、主食をパンにされていた。調査訪問時、ご家族からいただいたふきの皮むきをされる利用者の様子がうかがえた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養が偏らないよう調理に心がけている。食事の摂取状況を毎日チェック表に記録している。10時、3時のおやつ、入浴後の水分補給に気を付けている。また、普通食の摂取が出来ない方には個別に軟らかく煮たり、とろみをつけたり一人一人の状態や力に合わせた支援をしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きの声かけを行いチェック表の記入をしている。歯のない利用者さんに対してはうがいをしてもらったり、自分で出来ない方は、ガーゼ等を使用することで、口腔内の清潔保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者や一人一人の排泄パターンを把握し、出来る限りトイレで排泄出来るよう声かけやトイレ誘導を行っている。紙パンツから布の下着に替えることで不快感の排除、自己負担である排泄用品の出費の軽減に努めている。	
			(外部評価) 入居時、紙オムツの方はまず紙パンツへ、紙パンツの方は布パンツにパットを使用する等、徐々に改善できるよう取り組まれている。頻回な尿漏れが続く方については、病院受診され、疾病の有無等も調べて支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 繊維質の多い食材での調理や散歩、水分補給など色々工夫し、ヨーグルトや牛乳を人により飲んでもらうことで、自然排便に向けて取り組んでいるが頑固な便秘になったときは下剤の使用を余儀なくされている方がいる。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴回数、時間等個々人の希望に合わせてるようにし、職員が見守りや介助をして、ゆっくり入ってもらっている。又夏場いつでもシャワーで汗を流せるよう声かけしている。	
			(外部評価) 基本的には、週2回入浴されている。入浴がお好きな方は、職員と会話をしながら入浴されたり、ひとりで入浴することを希望される方は、ドア越しに職員がそっと見守りながら、安全等にも気を付けて支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 散歩や買い物など日常の活動を通じて生活リズムを作り、安眠できるよう支援している。寝付けないときは一緒にお茶を飲んだりおしゃべりをしたり、ゆっくりした時間の中で眠りに入れるよう支援している。日中も、思い思いに自由に自室で休息されている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者や一人一人の処方箋をシートにし、使用している。薬を把握し正しく服用できているか確認している。症状が変わった時は主治医に連絡し薬を減らしたり中止している。薬が変更したときは職員にも周知し、家族にも連絡し知らせている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入所前に出来ていたことなどを把握した上で、台所、洗濯、掃除など利用者一人一人が無理の無いよう楽しんで行えるよう、役割が持てている。また、四季折々に花の見学に出かけたり、家に帰るなど(ふるさと訪問)気晴らしの支援を行っている。嗜好品で、ビールを飲みたい方にはいつでも飲めるよう準備をしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は毎日出かける利用者さんがいるため、近所の人とも顔見知りになっている。買い物にも必ず利用者さんと出かけるようにしている。また、観劇、墓参り、寺参り等行きたいところへ出かけられるよう支援している。	
			(外部評価) 職員とともに事業所周辺を散歩されたり、近くのスーパーへ食材の買出しに出かけられたり、車椅子の方も日常的に外出をされている。町の産業文化会館で行われる文化祭や演劇等に出かけたり、演歌歌手のコンサートを楽しみに松山まで職員と出かけられた方もある。先日は、5人の利用者と職員で、お弁当を持って動物園に出かけられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お小遣いを自分で管理している利用者さんもいて買い物、お賽銭など自分で払っており、利用者一人一人の能力に応じて支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙は代筆したり、電話のやりとりなど希望に応じ支援している。電話は子機を使用してもらっており、自分の部屋で話ができるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングが天窓になっており、柔らかい光に包まれているので利用者、来訪者もリラックス出来ていると思う。ソファを所々に置いてあるので利用者それぞれ好きな場所でくつろげる工夫をしている。職員手作りのものが飾られており温かく親しみやすい雰囲気があると思う。</p> <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、利用者は居間や階段踊り場のソファ等、お気に入りの場所で過ごされていた。塗り絵をされている方も見られた。壁に貼られた地域のゴミ出しカレンダーで確認しながら、ゴミ出しをされたり、居間には緑やお花を飾り、居心地良く過ごせるような空間作りをされていた。居室と居間をシルバーカーで行き来される利用者の姿もあった。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>それぞれが思い思いの場所で過ごせるようにソファ等複数箇所に設置している。気のあった利用者さん同士で話をしたり、静かに過ごしたい利用者さんは好きな音楽を聴いたり、口ずさみながら過ごしている。ペランダに出やすくなるような工作を依頼している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者さんの部屋は利用者さんの状態に応じ洋室、和室を利用できるようにしている。タンス、テレビ、小物など本人の使い慣れた物を持ち込んでもらうようにしている。御家族の写真や、誕生日の色紙、花など好みの物が飾られており、安心して過ごせる場所になっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>壁に、好きな歌手のポスターやカレンダーを貼っている方がおられた。急須や湯のみを置いて、お好きな時にお茶を飲まれる方もある。テレビを置かれている方、ラジオで好きな民謡を聴かれる方もある。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>要所に手すりを設置し、洗濯物も低い所に干してもらったり安全で使いやすく出来るだけ長く自立した生活が送れるよう配慮している。各居室には表札や暖簾がかけあり家庭的な雰囲気を壊さないよう場所間違い、混乱等を防ぐ工夫をしている。</p>	